平成30年9月発行 第39号 発行：京都府立林業大学校（隔月発行）

京林大だより

No.39

絵:卒業生 熊走君

林業大学校に集え熱き仲間たち！ オープンキャンパス2018を開催！

去る７月２８日（土）に開催したオープンキャンパスには、連日の猛暑と台風が迫り来る中、全国から約４０名の方々にお越しいただき、説明会場は満員状態！

学校の説明から林大生によるチェーンソーのデモ、高性能林業機械の操作体験、個別相談等を行いました。

台風が近づき時間は少し短縮しましたが、職員の熱い思いが届いたのか、風雨の影響もなく参加者の皆様と再会のお約束をして無事終了しました。

また、平成２８年度以降入学生が定員に満たない状況が続いているため、１００校を超える高校訪問や新聞広告、オープンキャンパス等、京林大のＰＲ活動に職員が一丸となって取り組んでいます。

高性能林業機械のデモには人だかりが！

高性能林業機械の体験に女子学生も参加

説明を熱心に聞く参加者の皆様

チェーンソーの実演にも関心しきり

個別相談会は順番待ちも

林政ニュース

森林環境譲与税

森林環境税のことは、昨年の７月号で触れましたが、２０２４年度から導入されることになりました。

この森林環境税で集めたお金を、国が都道府県、市町村に譲与するのが森林環境譲与税です。

しかし、来年度から「新たな森林管理システム」（３０年１月号で触れています。）が始まるのに合わせ、森林環境譲与税は、国の特別会計等から借入れ、前倒しで来年度から徐々に額を増やしながら譲与され、後年森林環境税から少しずつ返済されることになっています。

また、譲与の基準は私有林人工林面積や、林業就業者数、人口の比率で譲与することになっています。

森林環境譲与税を活用するに当たっては、国民皆で森林を支える仕組みであることから、広く国民全体に対して説明責任を果たすことが求められるため、市町村は使途を公表しなければならないことになっています。

今月の授業参観

『刈払い作業実習』

今年の夏は本当に暑かったですね。

暑い時期にしかできない、林業界では避けて通れない実習があります。７月に３日間ある「刈払い作業実習」です。

実習は熱中症対策に最大限の注意を払いながら行ないましたが、過酷な環境下での実習となりました。

学生が林業界での現実を体験することも目的ではありますが、熱中症の危険性が身に染みたと思います。学生も先生も汗だくで、何とか無事やりきったという厳しい実習でした。　(^_^;)

校長室より

和知駅ドイツトウヒ倒れる

校長　只木良也

京都林大所在の和知、古く木材集散地として繁栄。JR和知駅前には、そのシンボルのようなドイツトウヒの木が・・・。

当コーナーでも二・三度記事にしましたが、繰り返しますと、明治の文明開化期、わが国林業が先進モデル国としたのがドイツで、それを象徴する樹木がドイツトウヒ。林業関連の役所、施設、学校などにそれを植栽する例が、各地にあり、丹波木材の中心地としての和知にも植栽されたものだと、想像できます。

林大校長に着任した私は、和知駅前にドイツトウヒの在ることを知り「林大だより7号（2013年5月）」に、このことを記事にしました。

当時、和知駅に改修計画あり、この木は伐採の予定だったとのこと。

記事を読んだ駅員さんは、「和知の木」の意義を感じてくれて、トウヒ伐採は中止、「トウヒの木は残った」のです。

そればかりか、和知駅を守る会、和知駅、京都林大、三者連名の説明板まで付けて下さったのです。

その経緯は「林大だより18号（2015年3月）」に掲載しました。

さて、今年の夏は、豪雨・台風の多い年でした。8月後半に、すでに20号のナンバーをもつ台風が出現し、8月24日未明には関西を駆け抜けて行きました。

この台風による強風を受けて、この和知のドイツトウヒは倒れました。「根こそぎ」ではなく、根元でポッキリと言う状態で、すでに幹の芯に腐れが入り、外周で何とか持ちこたえていた様子。

そんなこと、誰も気づかず、まだまだ元気だと思っていたのですが。

トウヒは、伐採予定解除になって何年か永らえた寿命、さらにまだまだ続くべき「樹命」を林業和知の後継者「京都林大」に、肩代わりしてくれたとは勝手な解釈でしょうか。そう考えて、京都林大頑張らなくちゃ・・・。

山陰線開通して、和知駅開業したのは明治43年8月25日、その時記念植栽？　とは駅員さんの推定。108年を経てトウヒ風倒の日付は8月24日！
1日違い。

編集・発行 京都府立林業大学校 〒629-1121 京都府船井郡京丹波町本庄　TEL.0771-84-2401　FAX.0771-84-0797
ホームページ：http://www.pref.kyoto.jp/kyorindai/　E-Mail: kyo-rindai@pref.kyoto.lg.jp